

# 経 済 指 標

## 1 経済指標で見る「地域経済情勢」

### ◆ 日本経済(内閣府「月例経済報告」[17年3月]) ◆

景気は、一部に改善の遅れもみられるが  
緩やかな回復基調が続いている

#### 個人消費

- ・総じてみれば持ち直しの動きが続いている

#### 企業活動

- ・生産は持ち直している
- ・輸出は持ち直している
- ・業況判断は緩やかに改善している
- ・設備投資は持ち直しの動きがみられる

### ◆ 和歌山県経済 ◆

個人消費、企業活動ともに一部で持ち直すも、弱さも見られ  
和歌山県経済は持ち直しをうかがう状況が続いている

#### 個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額(2月、全店)は3カ月連続で前年を下回る
- ・新車販売台数(1月)は3カ月連続で前年を上回った

#### 企業活動

- ・鉱工業生産指数(1月、季節調整値)は2カ月連続で下降。約1年ぶりに100を下回る
- ・TDB景気DI(2月)は上昇。ただし、製造業の景気DIが下降傾向にある

### ◆ 大阪府経済 ◆

個人消費、企業活動ともに持ち直しの動きが鮮明となり  
大阪府経済は足踏み状況を脱し、回復の動きが見られる

#### 個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額(2月、全店)は2カ月連続で前年を上回った
- ・新車販売台数(2月)は7カ月連続で前年を上回った

#### 企業活動

- ・TDB景気DI(2月)は前月比横ばいながら、昨年9月以降の改善基調を維持
- ・鉱工業生産指数(1月、季節調整値)は高い水準を維持している
- ・昨年4~2月累計の公共工事請負金額は前年同期比9.5%増

# 経済指標

## 2 経済指標で見る「和歌山県経済」

個人消費、企業活動ともに一部で持ち直すも、弱さも見られ  
和歌山県経済は持ち直しをうかがう状況が続いている

和歌山県に関する経済指標の概況（2月指標を中心に）

### 《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（2月、全店）は3カ月連続で前年を下回る。
- 家計消費支出（除く住居等、2月）は7カ月連続で前年を下回る。
- 新車販売台数（1月）は3カ月連続で前年を上回った。

### 《企業活動》

- 鉱工業生産指数（1月、季節調整値）は2カ月連続で下降。約1年ぶりに100を下回った。
- 昨年4～2月累計の公共工事請負金額は前年同期比7.0%減。
- TDB景気DI（2月）は上昇。ただし、製造業の景気DIが下降傾向にある。

### 《その他》

- 消費者物価指数（2月、和歌山市）は、総合、コアコアCPIともに下降傾向。
- 有効求人倍率（2月）は3カ月連続で上昇。1991年10月以降では初めて1.2倍台に。

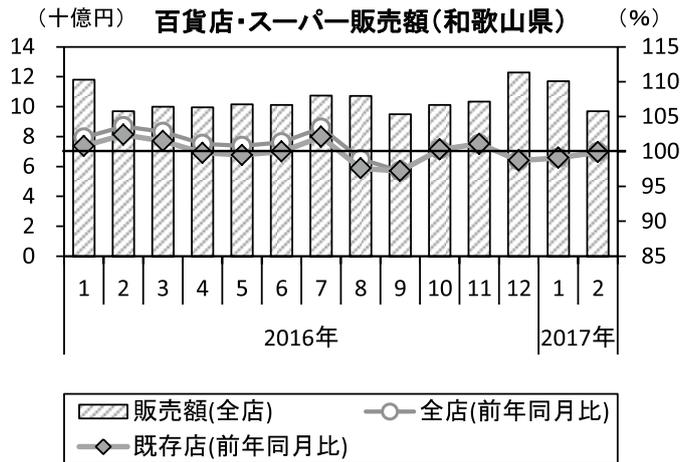
和歌山県の経済指標の概況変化(前年同月との比較 ※一部は前月比較)

|      |                          | 2016年 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 2017年 |   |
|------|--------------------------|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|-------|---|
|      |                          | 1     | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1     | 2 |
| 個人消費 | 百貨店・スーパー販売額(全店)          | ○     | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ○  | ○  | ●  | ●     | ● |
|      | 新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)   | ●     | ● | ● | ○ | ● | ● | ○ | ○ | ● | ●  | ○  | ○  | ○     |   |
|      | 新設住宅着工戸数                 | ●     | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○  | ●  | ●  | ○     | ○ |
|      | 家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)    | ●     | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  | ○  | ○     | ○ |
| 企業活動 | 鉱工業生産指数 ※前月比             | ○     | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  | ○  | ○     |   |
|      | 公共工事請負金額                 | ○     | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  | ○  | ○     | ○ |
|      | TDB景気DI ※前月比             | ●     | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  | ○  | ○     | ○ |
| 物価   | 消費者物価(コアコアCPI、和歌山市) ※前月比 | ●     | ○ | - | ○ | ○ | - | ○ | - | ○ | ○  | ○  | ○  | ○     | ○ |
| 雇用   | 有効求人倍率                   | ○     | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  | ○  | ○     | ○ |

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

## 百貨店・スーパー販売額

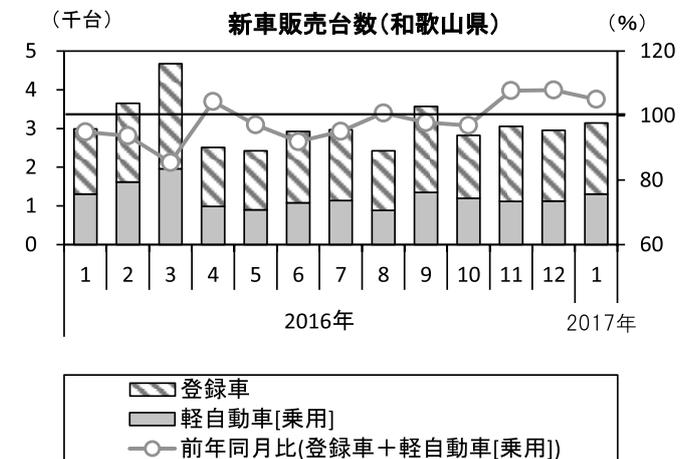
百貨店・スーパー販売額（全店、2月）は3カ月連続で前年を下回った。前年2月はうるう年であったことから、今年2月の営業日数が1日少なかったことが影響したものと考えられる。1月までの値ながら、品目別では「飲食品」の販売額は前年を上回ったものの、衣料品、靴・バッグ等の身の回り品、宝石・時計等の品目は、いずれも前年を下回った。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

## 新車販売台数

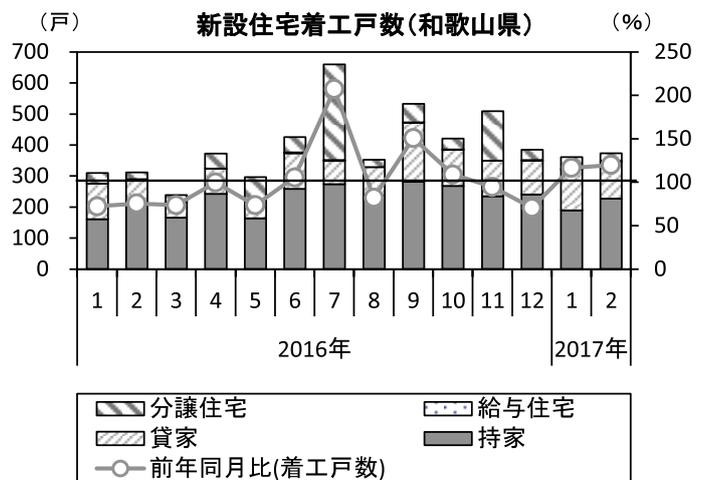
新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、1月）は、3カ月連続で前年を上回った。登録車が3カ月連続で前年を上回り、軽自動車についても、2カ月連続で前年を上回った。軽自動車は軽自動車税の増税や大手メーカーによる燃費不正問題等の影響で長らく販売台数が低迷していたが、ここに来て底打ちの兆しが見られる。



(資料)一般社団法人全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに和歌山県自動車販売協会資料

## 新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数（2月）は、2カ月連続で前年を上回った。2014年4月の消費増税以降、長期にわたり、減少傾向が見られていた県内住宅市場だが、持家を中心にした持ち直しの動きが鮮明になっている。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

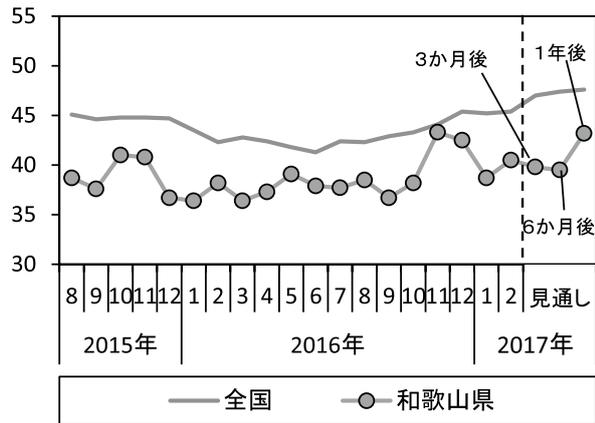


## 景況感 (TDB 景気DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

2月の景気DIは上昇した。ただし、全国に比べて和歌山県の景気DIは低い水準にある。特に製造業の景気DIは2月は上昇したものの、昨年後半以降は下降傾向が見られる。

TDB景気DI (判断の分れ目は50)



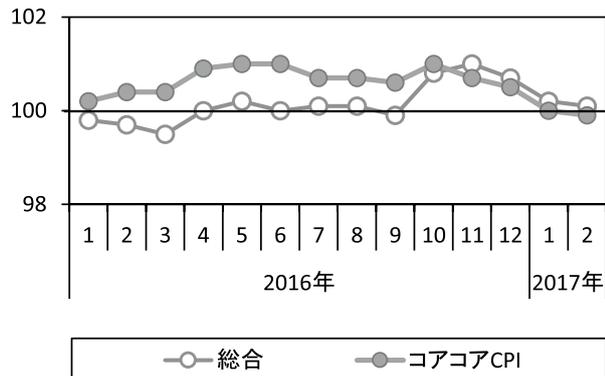
(資料) (株)帝国データバンク

## 消費者物価指数

消費者物価指数(2月、和歌山市)は総合、コアコアCPIともに下降。昨年10月以降、下落傾向となっている。

原油価格の上昇を背景に、電気代等のエネルギー価格は上昇傾向にあるが、天候不順による野菜価格の高騰には落ち着きが見られるようになっており、家庭用耐久財などでも価格が下落している。

消費者物価指数(和歌山市、2015年=100)



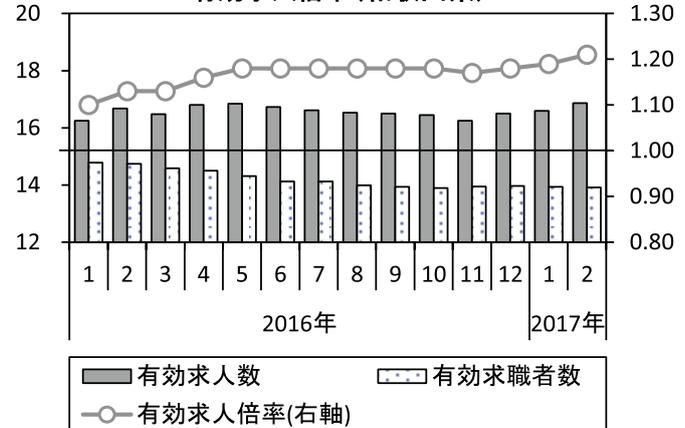
(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。  
(資料) 総務省「消費者物価指数」

## 有効求人倍率

有効求人倍率(2月)は3カ月連続で上昇。1991年10月以降では初めて1.2倍台となった。有効求人数は再び増加基調にあり、1963年の統計開始以降では最も高い値まで増加している。新規求人数の水準も高く、運輸業、医療・福祉等で増加している。

ただし、求人に対して求職者が充足された割合(充足率)は低下しており、企業による人材確保は難しくなっている。

(千人) 有効求人倍率(和歌山県)



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

# 経済指標

## 3 経済指標で見る「大阪府経済」

個人消費、企業活動ともに持ち直しの動きが鮮明となり  
大阪府経済は足踏み状況を脱し、回復の動きが見られる

大阪府に関する経済指標の概況（2月指標を中心に）

### 《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（2月、全店）は2カ月連続で前年を上回った。
- 新車販売台数（2月）は7カ月連続で前年を上回った。
- 家計消費支出（除く住居等、2月）は6カ月ぶりに前年を下回った。

### 《企業活動》

- TDB景気DI（2月）は前月比横ばいながら、昨年9月以降の改善基調を維持。
- 鉱工業生産指数（1月、季節調整値）は高い水準を維持している。
- 公共工事請負金額（昨年4月～2月累計）は前年同期比9.5%増。

### 《その他》

- 消費者物価指数（2月、大阪市）は、総合、コアコアCPIともに下降傾向。
- 有効求人倍率（2月）は1.45倍と高水準だが、充足率は低く、労働市場でのミスマッチが懸念される。

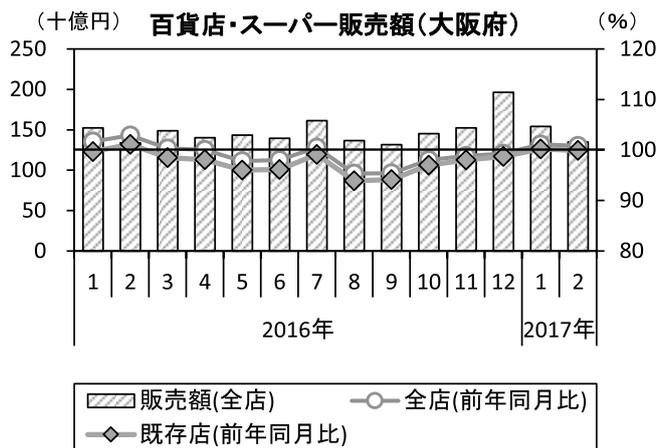
大阪府の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

|      |                         | 2016年 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 2017年 |   |
|------|-------------------------|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|-------|---|
|      |                         | 1     | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1     | 2 |
| 個人消費 | 百貨店・スーパー販売額(全店)         | ○     | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ○ | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ○     | ○ |
|      | 新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)  | ●     | ● | ● | ○ | ○ | ● | ● | ○ | ○ | ○  | ○  | ○  | ○     | ○ |
|      | 新設住宅着工戸数                | ●     | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | ● | ○  | ○  | ○  | ○     | ○ |
|      | 家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)   | ●     | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ● | ○ | ○  | ○  | ○  | ○     | ○ |
| 企業活動 | 鉱工業生産指数 ※前月比            | ○     | ● | ○ | ● | ● | ● | ○ | ○ | ● | ○  | ○  | ○  | ●     |   |
|      | 公共工事請負金額                | ○     | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○  | ●  | ●  | ●     | ● |
|      | TDB景気DI ※前月比            | ●     | ● | ○ | ● | ● | ● | ○ | ● | ○ | ○  | ○  | ○  | ○     | - |
| 物価   | 消費者物価(コアコアCPI、大阪市) ※前月比 | ●     | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | - | ○ | ○  | -  | ●  | ●     | - |
| 雇用   | 求人倍率                    | ○     | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  | ○  | ○     | ○ |

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

## 百貨店・スーパー販売額

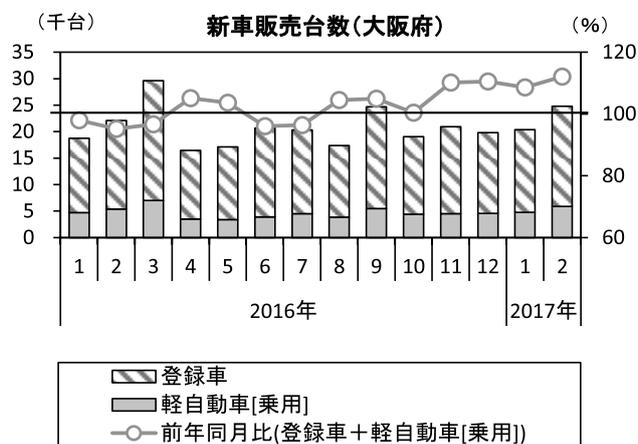
うるう年の前年2月に比べて営業日数が1日少なかったが、百貨店・スーパー販売額（全店、2月）は前年を上回った。販売額が前年を上回ったのは、2カ月連続。昨年8月以降12月にかけては、天候不順などもあり、衣料品を中心に販売額が低迷していた。ただ、今年に入り、品目別の販売額を見ると、宝石・時計等の「その他の商品」や「婦人服・子供服・洋品」で販売額が前年を上回った。株高を背景に、高額品の販売額などが復調しているものと考えられる。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

## 新車販売台数

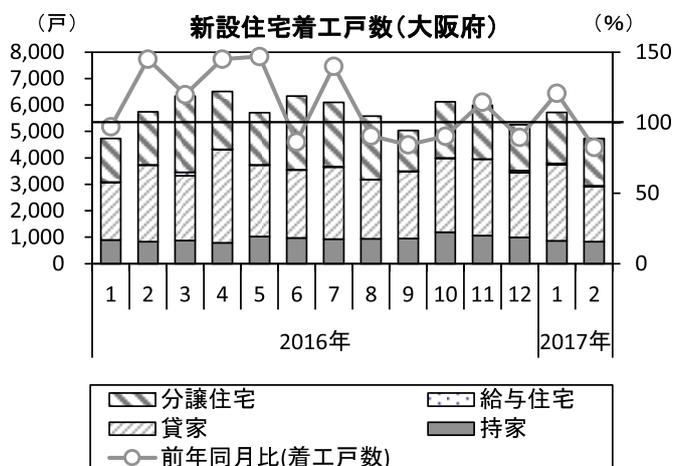
新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、2月）は7カ月連続で前年を上回った。軽自動車税の引き上げなどから販売台数が低迷していた軽自動車〔乗用〕だが、昨年11月以降は前年を上回る販売台数となっている。登録車についても、昨年11月以降、販売台数が前年比で1割以上増えており、持ち直しの動きが強まっている。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに東京自動車販売協会「新車販売台数(登録車)」

## 新設住宅着工戸数

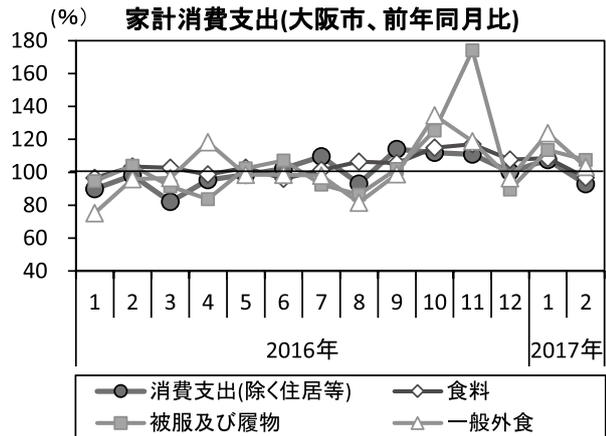
新設住宅着工戸数（2月）は、2カ月ぶり前年を下回った。大阪府の新設住宅着工戸数のほとんどを占める「貸家」、「分譲」で着工戸数が減少した。ただし、昨年4月～2月までの累積での新設住宅着工戸数は4.2%の増加となっている。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

## 家計消費支出

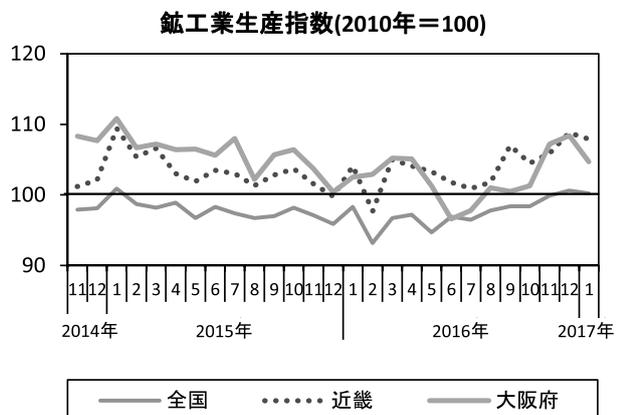
家計消費支出（除く住居等、2月）は、6カ月ぶりに前年を下回った。ただし、費目別では、「被服及び履物」、「一般外食」などでは支出額が前年に比べて増加傾向にある。



(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

## 鉱工業生産指数

鉱工業生産指数（1月）は前月から下降。ただし、前年1月に比べると、2ポイントほど高い水準にある。昨年6月には約4年ぶりの低水準となっていたが、鉄鋼、金属製品、化学、機械工業などの業種で指数が大きく上昇し、全体をけん引した。

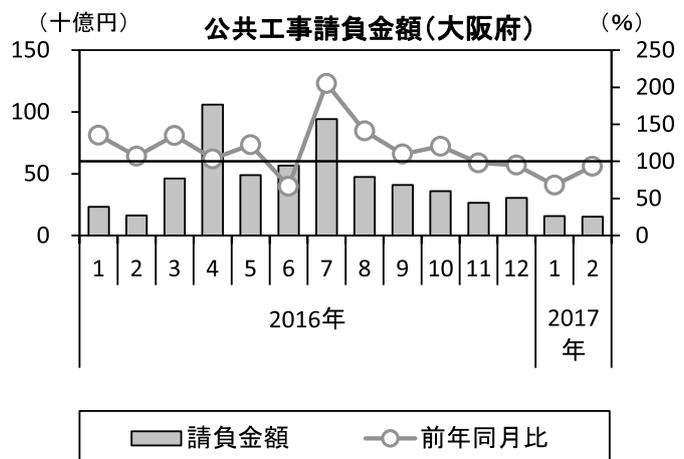


(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」  
大阪府「大阪の工業動向」

## 公共工事請負金額

昨年10月までの公共工事請負金額は前年比増加傾向が見られていたが、それ以降は4カ月連続で前年を下回っている。

ただし、昨年4月～2月までの累計請負金額は前年同期比9.5%増となっており、2016年度合計では増加することが予想される（2015年度も前年度比増加）。



(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事動向」

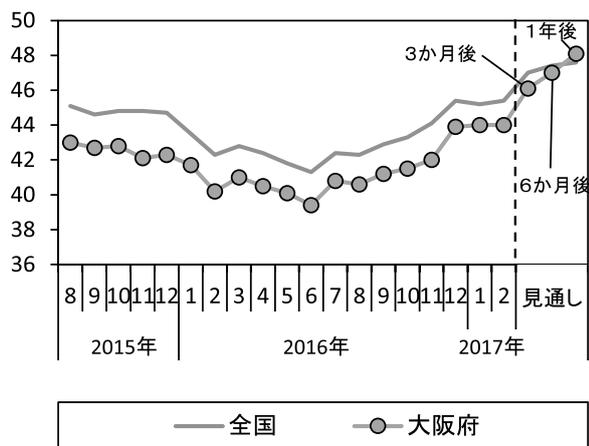
## 景況感 (TDB 景気DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

景気DI (10月) は前月からは横ばいの44.0。ただし、昨年9月以降の改善基調は維持しており、3カ月後以降の見通しについても景気DIはさらに上昇する模様。

業種別では、製造業、建設業、卸売業が全体をけん引しており、3カ月後の見通しでは、運輸業、卸売業、小売業などで大きく改善が見込まれている。

TDB景気DI (判断の分れ目は50)



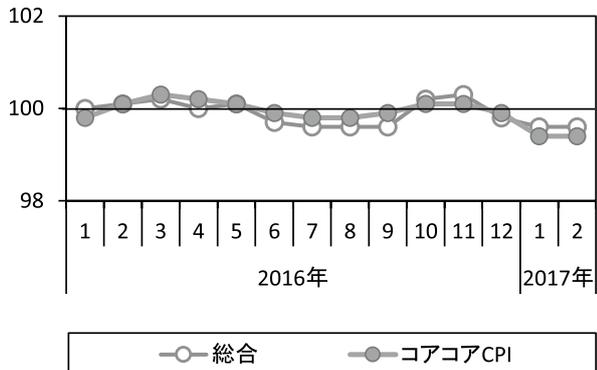
(資料) (株)帝国データバンク

## 消費者物価指数

消費者物価指数 (大阪市、2月) は、総合、コアコアCPIともに前月からは横ばい。

天候不順による野菜価格の高騰も落ち着き、生鮮食品価格は前月比下落している。原油価格の上昇を受けて、電気代等のエネルギー価格は上昇しているが、前年同月に比べてまだ低い水準にある。企業間でやりとりする物の価格 (企業物価) は上昇傾向にあることから、今後は消費者物価指数についても上昇することが予想される。

消費者物価指数(大阪市、2015年=100)



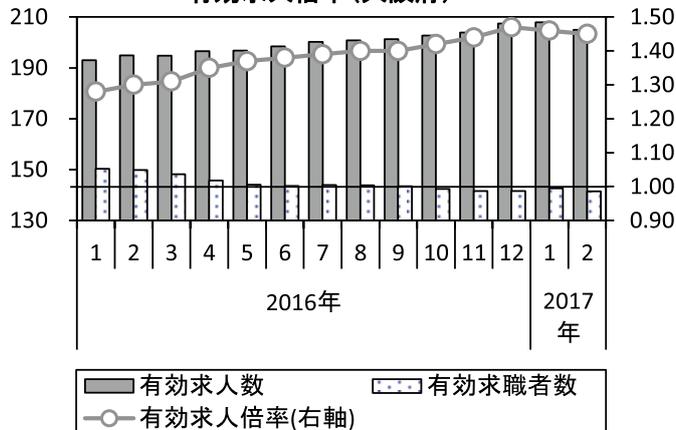
(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。  
(資料) 総務省「消費者物価指数」

## 有効求人倍率

有効求人倍率 (2月) は、直近の最高値である1.47倍 (昨年12月) からは0.02ポイント低下したが、依然として1.45倍と極めて高い水準となっている。

求人に対して求職者が充足された割合 (充足率) は低下しており、有効求職者数の減少も重なって、企業による人材確保は難しくなっている。

(千人) 有効求人倍率(大阪府)



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」